（様式４）

２．事業の概要と成果	
（１）上位目標の達成度	＜長期目標＞ リンポポ州ベンベ郡におけるHIV陽性者及びエイズに影響を受けている人々が心身ともに健康を維持することができ、HIV/エイズに対する差別・偏見が軽減され、HIV感染拡大が抑えられる。 ＜プロジェクト目標＞ リンポポ州ベンベ郡マカド地区9村において、HIV陽性者が健康を維持していくためのサポート体制が向上するとともに、HIV陽性者を含む地域住民が効果的なHIV感染拡大予防活動に取り組むことができるようになる。
（２）事業内容	**（イ）地域で患者をケアする在宅介護ボランティア（Home Based Care Volunteer、以下HBCV）の育成** *①HBCVの能力向上のための研修（HIV/エイズ治療に関する研修、救急法研修、カウンセリング法研修）、②他村、他NGOの経験から学ぶための経験交流の実施、③村内住民を対象とした相談所、情報提供の場としてのカウンセリングセンターの開設* ● HIV／エイズ治療に関する研修は２回に分けて実施された（うち供与金で実施したのは１回（２月18～22日））。48名のHBCボランティア（とスタッフ）、17名DICボランティア（スタッフ1名含む）、11名の年長者グループメンバーに研修が参加した。 ● HIV／エイズ治療フォローアップ研修が行われ（9月9～13、16～20日）、HBCボランティア40名（スタッフ2名含む）、DICボランティア17名（スタッフ1名含む）が参加した。 ● 救急法研修を10月22～24日に実施。HBCボランティア35名が研修に参加した。 ● 11月に上記2つの研修、及び1年間の活動成果を評価するため、家庭訪問とワークショップを実施した（2014年1月まで実施）。 **（ロ）ケアの必要な子どもの世話をするボランティア（Drop In Center Volunteer　以下 DICV）の育成** *①DICボランティアの能力向上のための研修（イと同様）、②子ども同士の経験交流、③子どもが集まり、学ぶことを目的とした子どものケアセンター（DIC）に対する，楽器や本などの子どもの興味をひく教材の提供* ● 子どもの経験交流は2012年12月7日に実施され､約150名が参加し、子どもたちの関係を深める機会となった。6月25日（82名参加）、7月1日（31名参加）に学校休暇を使い、子どもたちの交流イベントを実施した。 ● 3月11～15日に、カウンセリング研修をDICボランティア16名＋スタッフ2名対象に実施した。 ● カウンセリング・フォローアップ研修を、7月22～26日、DICボランティア16名＋スタッフ1名対象に実施した。 ● 8月29日には、研修提供団体事務所において修了証の授与式、また類似の子どもを対象とした活動を行なう団体との経験交流を実施した。

	● 10 月 16～18 日はカウンセリング研修のフォローアップとして「メモリーボックス」づくりを行った。 ● 救急法研修を、8 月 6～8 日、10 月 22～24 日の 2 回に分けて実施。DIC ボランティア 22 名（スタッフ含む）、年長者グループ 13 名、その他コミュニティメンバー5 名が参加した。 ● ７～8 月にかけて、DIC に通う子どもたちの家庭での様子の把握、保護者との関係構築を目的に世帯調査を行い、3 ヵ村 85 名の子どもの家庭を訪問した（継続中）。 **（ハ）地域における HIV/エイズに対する正しい知識や態度が培われるよう HBCV や DICV による予防啓発活動が強化される。** *事業内容は（イ）、（ロ）に含まれる。* **（ニ）HIV 陽性者自身によるケアの質の向上と予防啓発活動の促進** *①HIV 陽性者が自身をケアできるようになるための研修、②経験交流、③HIV 陽性者自助グループ（Support Group/以下、SG）の活動強化、④各村の SG センター開設、⑤予防啓発活動の促進* *提携団体の SG 活動が中断されたため、実施されなかった。* **（ホ）生活改善のための家庭菜園づくり** *①家庭菜園づくり研修、②技術定着のためのモニタリング、③経験交流、④教材作成* ● 家庭菜園に関する調査を実施。その結果を基に家庭菜園作りの研修を開始した。前期は座学を中心とした導入研修を約 80 名に提供（11 月 16、23 日、供与以前）した。 ● すでに菜園活動を行なっている地域の人びとを対象に菜園活動ファシリテーター研修を実施。12 名が参加（1 月 14～18 日、1 月 12～15 日）。今後の各村で研修の実施、モニタリングを担う人材を育成した。 ● 実践を踏まえた事業地各村での研修を、2 ヵ村で 23 名を対象に実施した（4 月 9～1 日、7 月 16～19 日）。その後、トレーナーが中心となり菜園活動のモニタリングし、適時サポート、菜園の継続を促した。 ● 4 月 15～16 日に、ドロップイン・センター（DIC）の子どもたち対象に菜園活動、植樹に関するワークショップを実施。同時にセンター内に小さな菜園を設置、果樹を植え、センターの環境整備を行った。 ● 自然農法を実践する東ケープ州の農村（JVC が過去成果を挙げた事業地）を、菜園活動のトレーナーと JVC スタッフで訪問した（3 月 18～22 日）。
（３）達成された成果	ここでは、総評のみを記載、「期待される成果とその指標（申請書別紙２）」の事業 1 年目の指標に対するコメントは、添付別紙を参照。 **イ．HIV 陽性者やエイズの影響を受ける人びとが地域で適切にケアされるようになる。** HIV／エイズ治療法研修、救急法研修から得た知識が、日々の訪問介護活動に生かされていることが、事業モニタリング、評価活動を通して確認され

	た。HIV の感染の仕組みや ARV がどのように効くのか、ARV の副作用などについて学んだことで、なぜ ARV の服用を中断してはいけないのか患者により詳しく説明し、服用の継続を促すことができるようになった、などの事例が聞かれた。また、研修後のモニタリングでは、HBC ボランティアがより自信を持って患者やそのケアギバーと接する姿が確認され、研修で HIV 陽性者やそのケアギバーに対するケアが向上したと言える。HBCV が研修を受けたことを知った HIV 陽性と思われる患者が、HBCV を訪問し、情報提供や相談を求める事例もあった。今後は学んだ知識が維持、アップデートされる努力が継続される必要がある。 **ロ．エイズの影響を受ける子どもが地域で適切にケアされるようになる。** 主にカウンセリング研修を通し DIC ボランティアがより自信をもって子どもたちのケアにあたることができるようになった。困難を抱える子どもたちに日々対応する中で、他のボランティアとどのように情報共有しチームで問題解決に取り組むか、地域のステークホルダーとどのように協力するか、ボランティア自身がストレスをどのようにマネージするかなどを学び、実践に生かしている。 家庭訪問の実施を通し、DIC ボランティアと子どもたちの保護者との関係構築つくりを開始することができた。TLT、応急治療研修については、その成果が活動に表れているか確認できなかったが、緊急時に学校や地域の人に協力を求められるなど、研修を受けたことで住民から必要とされたケースが報告された。また、HIV 陽性者を差別してはいけない、子どもたちのケアにあたる際に自らの感染を防がなくてはいけないことなど態度の変化が一部で見られた。 **ハ．HBCV、DICV による予防啓発活動が強化される。** HBC、DIC ボランティアともに研修を経て、予防啓発活動を効果的に実施するにあたり必要となるエイズ治療の基礎的な知識を得ることができた。HBC は日々の活動の中で保健局と連携し予防啓発キャンペーンなどを行っており、その際に学んだ知識を生かしている。日々の訪問介護の際にも予防啓発（特に母子感染について）を以前より積極的に行っていることが確認できた。 一方で、DIC は活動の中に定期的な予防啓発活動の機会などが含まれているわけでなく、今後センターに通う子どもたち、学校などをとおして積極的にその機会を創っていくことが必要となる。とくに、子どもたちを対象とした予防啓発活動には年齢に応じた戦略が必要となり、その方法を学ぶ機会を今後設けることで、身につけた知識がより適切に活用されることを促していく。 **ニ．HIV 陽性者自身によるケアの質が向上するとともに HIV 陽性者自身が地域で予防啓発活動を実施できるようになる。** 事業実施提携団体が運営する自助グループ（サポートグループ、SG）に所属する陽性者などを中心に研修を実施、ケアの質向上を図る予定だったが、提携団体が SG の運営を中断したため、実施に至らなかった。HIV ステータスを HBC ボランティアやコミュニティ内で明かしたくないという陽性者が

	多く、自助グループ等に参加していない個人の研修への参加などを促すのは現段階では難しい。HBC ボランティアが HIV／エイズ研修を受講したことで、陽性者へのアプローチの仕方、機会が改善されることにより、陽性者との関係が改善されることが期待される。 **ホ．家庭菜園によって栄養／生活状況が改善される。** 研修参加者の多くが菜園の自主的に開始した。しかし、水不足、家畜などに菜園を荒らされたなどの理由で、継続できなかった参加者が多く出た。しかし、中には菜園を枯草などで覆う（マルチ）、畝（うね）のデザインなど水をより効率的に管理する方法、混作など研修で学んだ手法を取り入れ、水の少ない時期なども含めほぼ一年間を通して菜園を維持するなど、成果を挙げた者もいた。 HBC の活動地域での菜園研修が実施できなかったため、研修対象が計画段階よりも減ってしまい、その分成果を広げることが第一期はできなかった。
（４）持続発展性	**（イ）地域で患者をケアする在宅介護ボランティア（Home Based Care Volunteer、以下 HBCV）の育成** ・ 事業提携団体の HBC 活動は今後も継続される。日々の訪問介護活動の中で知識、スキルが使われていくことでその成果が持続される。また月例の会合の中でレビューを行うことを促すことで、知識を定着させていく。 ・ HIV 治療薬 ARV について昨年半ば政府の政策変更で、今まで 3 種類の薬を複合して服用していたが、1 錠で機能する ARV 薬に変更しはじめている。このように、公立診療所での治療や投薬の方針が変わることが今後もある。今までは、診療所や保健局から新たな情報を提供されても基礎知識がないため理解できないことが多々あった。しかし、本事業で提供した研修によって HIV 治療の知識を使い、今後治療法に変更があった際にも、知識を応用し理解することができる。 **(ロ)ケアの必要な子どもの世話をするボランティアの育成** ・ 事業実施提携団体の DIC 活動は今後も継続される、日々の活動の中で知識、スキルが使われていくことで、成果が時事・持続されていく。 ・ 本事業 2 年目に、研修の成果を定着させるためのレビュー、活動のモニタリング、他団体との経験交流などを積極的に行い、研修で得た知識・スキルの定着を図っていく。 **(ハ)HBCV や DICV による予防啓発活動の強化（改善）** ・ HBCボランティアは日々の家庭訪問の中で、DICボランティアは子どもたちとの活動の中で予防軽活活動を実施していく。 ・ DIC による啓発活動については、本事業 2 年目に、啓発活動のノウハウの強化やツールの整備などをおこなっていく。 **(ホ)生活改善のための家庭菜園づくり** ・ 本事業 2 年目に、菜園作りを定着させるためのモニタリングを引き続き行っていく。

（様式４）

	・　すでに菜園活動を積極的に行っている地元住民の中から菜園ファシリテーターを育成し、地域内でノウハウが共有される体制を構築し始めている。2 年目に継続してファシリテーターの育成に務めていく。